

経営学研究科 学位論文評価基準

- 修士又は博士学位を申請するための論文（以下、「論文」という）の審査に際しては、論文提出者が研究テーマの知識や学識に関してそれぞれの学位にふさわしい水準に達していることが求められるものであり、論文提出者には経営学に関わる専攻分野において、深い学識とともに、主体的に研究を遂行する能力を有していることが重視される。

論文においては、当該専攻分野における理論や現実理解に関し独創的で新規性をもつ経営学上の知見を提示することが認められ、当該専攻分野の発展に寄与する高度な研究成果を含む必要がある。

この場合、論文は以下の要件を満たさなければならない。

- 1 論文の目的が明確に示されているとともに、学術上の意義があること。
- 2 当該専攻分野における先行研究が十分に検討されていること。
- 3 目的に対する分析方法や考察が適切であること。
- 4 論文の見解が独創的で新規性がありそれが論理的、実証的に検証されていること。
- 5 記述が明確であるとともに、論旨に一貫性があること。

- 論文の形式について、次の諸点に留意すること。

研究成果を修士又は博士学位申請論文としてまとめ、提出するにあたっては、論文提出者だけに理解できる内容の論文ではなく、当該専攻分野の識者ならびに論文審査に当たる者が理解可能な形式で記述されなければならない。

この場合、以下の要件を満たさなければならない。

- 1 論文題目が修士又は博士論文にふさわしいこと。
- 2 論文題目にふさわしい論文内容、論文構成であること。
- 3 審査員が理解可能な形式で、論理的な文章で記述されていること。
- 4 本文、図、表、参考文献などの記述が論文として適切な体裁を備えていること。
- 5 資料、情報の扱いが適切であること。
- 6 誤字、脱字などの不備がないこと。